

令和7年度 調布市立第四中学校 学校経営計画（学校長 佐藤 政彦）

学校の教育目標	
心ゆたかに 体たくましく 賢い生徒 の育成	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
目指す生徒像を「澄み渡る心 さわやかな態度 熱い姿勢」とし、学校スローガンを「さわやかで熱い四中」とする。	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	<p>○現状・生徒は、挨拶など基本的な生活習慣が身に付いており、学校生活は落ち着いている。隣接小学校出身者が大半を占め、小学校からの人間関係・パワーバランスが確立しており、新たなリーダーが育ちづらい。保護者は、学校に対して協力的ではあるが、部活動数が減少したことへの不満や改築工事へ向けての不安を抱いている。地域は、繁華街や商業施設が少なく、騒音や住民トラブル等もない。地域の健全育成団体等とは、あいさつ運動や各種地域行事への参加を通して連携・協力関係が築けている。</p> <p>○課題・確かな学力の定着及びICTを活用した指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の充実及び個に応じた指導の充実、不登校対応巡回教員やSSWとの連携</li> <li>・地域と連携した学校づくり、学校運営協議会及び地域学校協働本部との連携</li> <li>・働き方改革の推進</li> </ul>
中期的な経営目標	
<p>1 豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努める。</p> <p>2 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるために、主体的・対話的で深い学びを実現させる。</p> <p>3 食育の推進に関する指導・安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導を充実させる。</p> <p>4 社会に開かれた教育課程の実現を目指し、保護者・地域と連携して教育活動の充実を図る。</p> <p>5 社会の一員として活躍する生徒の育成を目指し、「ボランティアマインド」「障がい者理解」「豊かな国際感覚」を育成する。</p> <p>351人・10組</p>	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①調布市防災教育の日(4月)、東京都ふれあい月間(年3回)、調布市いのちと心の教育月間・道徳授業地区公開講座(12月)により、自他の生命尊重や思いやりの心を育てる。	①少人数・習熟度別指導やユニバーサルデザインの視点に立った授業、生徒自ら学習課題・学習活動・発表形式を選択する授業により、個々の興味・関心を生かし自主的・自発的な学習を促す。	①特別支援教育校内委員会を週1回開催し、支援の必要な生徒の支援方法を検討する。また、特別支援教室専門員・不登校対応巡回教員・SSW等を活用して教育相談の充実を図る。
②職場体験、福祉体験、校外学習、旅行集団宿泊的行事等を通して、他人の良さや違いを認め、より良い人間関係を構築させる。	②モバイル端末を日常的かつ効果的に活用し、個人の思考を表現させ、更に共有・相互評価させる。ICT推進教師を中心に活用を推進する。	②毎月の保健給食委員会の活動等により、望ましい食習慣を身に付けさせ、健康的な生活を送らせる。給食時、食物アレルギーに配慮する。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①学校評価で「道徳教育の充実」についての肯定的な回答94%以上を目指す。	①学校評価で「主体的な学習態度の育成」についての肯定的な回答94%以上を目指す。	①学校評価で「教育相談の充実」についての肯定的な回答81%以上を目指す。
②学校評価で「体験活動の充実」についての肯定的な回答92%以上を目指す。	②学校評価で「モバイル端末の活用」についての肯定的な回答83%以上を目指す。	②学校評価で「食育指導の充実」についての肯定的な回答88%以上を目指す。
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 保護者・地域との連携	5 社会の一員として活躍する力	
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	
①学校だよりを月1回発行、学年だよりや学級だよりを適宜発行し、学校や生徒たちの様子を外部へ発信する。また、地域清掃やあいさつ運動等により保護者・地域との連携を図る。	①1年での福祉体験、2年での職場体験、全校による地域清掃やあいさつ運動、生徒会による校庭落ち葉掃き等の活動により、望ましい職業観や勤労観を養う。	
②HPを月5回以上更新する。すぐーるにより、連絡・確認事項を適時発信する。また、緊急・災害時の連絡手段として活用する。	②「ボランティアマインド」「障がい者理解」「豊かな国際感覚」の育成を図る体験的な活動を実施し、2020レガシーを継承する。	
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	
①学校評価で「学校情報の外部への発信」についての肯定的な回答85%以上を目指す。	①学校評価で「職業観・勤労観の育成」についての肯定的な回答93%以上を目指す。	
②学校評価で「HP・すぐーるの利活用」についての肯定的な回答97%以上を目指す。	②学校評価で「学校2020レガシーの醸成」についての肯定的な回答86%以上を目指す。	

人材育成・組織運営
<p>【人材育成】</p> <p>○若手育成チームの編成、相互授業参観、研修等による指導力向上 主幹・主任教諭・メンターでチームを編成し、組織的に若手教員を育成する。また、教員相互に授業を参観させ、授業力の向上に努める。</p> <p>○学年・分掌主任の意識の向上 運営委員会や行事委員会で学校課題の共有と解決策の検討を行わせ、主任としての意識を醸成する。起案事項は、必ず各主任を通す。</p> <p>【組織運営】</p> <p>○地域と連携した学校運営 地域の会合や行事に積極的に参加し、学校だより等により生徒や学校の様子を外部へ発信し、地域に開かれた学校運営を推進する。</p>